

ヤギ草プロジェクト

—草をたくさん調べ隊—

代表者 西田照（共獣B 5年）
構成員 井上夏梨（共獣B 5年）伊豫岡凌平（共獣B 5年）河村梨央（共獣B 5年）
土田悠梨（共獣B 5年）佐竹辰弥（共獣B 4年）
大塚有紗（共獣B 1年）重本佳音（共獣B 1年）
宮津陽太（共獣B 1年）三輪祥大（共獣B 1年）

1. 背景と目的

本プロジェクトの目的は、ヤギによる除草のための草本の種類の確認である。近年ヤギによる除草が、除草剤の使用の削減と除草後の草の廃棄を行う必要がないなどの観点から注目されている。本学部にもヤギがいるため、ヤギによる除草を行うことは可能である。しかし、ヤギはその草本が無害なのか有害なのか分からない状態で口にしてしまうため、草本による中毒の心配がある。そこで、本プロジェクトでは、山口大学敷地内の草本の種類の同定を行い、ヤギによる除草が可能かどうかを判定する。

それに加え、今回の草本調査で得られた草本の種類に関するデータは、「草図鑑」として学内で公開する。今回作成する図鑑が、身近にどんな植物が生えているのかに興味を持つきっかけになれば嬉しく思う。

2. 1年間の活動

2023年6月におもしろプロジェクトに採択していただき活動を開始した。まずは、準備として草本調査を行う場所の選定を行った。私たちは今年度の草本調査だけではなく、来年度はヤギによる除草も行う予定である。そのため、現状の除草はどのように行われているのか、その際に除草剤は使っているのか、ヤギによる除草は今後可能なのか等を考慮する必要があった。ヤギを連れていくことを考えて、まずは農場の方々に相談させていただき、農場内でヤギによる除草が行えそうな場所を教えていただいた。また、大学の学生支援課の皆様には、大学構内（農場以外）で除草が必要なエリアや除草剤が散布されているエリアを記した地図の作製、その後の草本調査時にご迷惑をおかけしてしまう可能性のある部活動との調整などたくさんのご協力を賜った。選定の結果、草本調査場所は農場2カ所、アーチェリー場、東の門付近の草地、農獣棟中庭とした。その後、必要物品をご用意いただき、2023年9月から2024年1月まで1か月に1回草本調査を行った。方法としては、実施日にみんなで草本調査場所に行って生えている草の写真を撮影した。調査で草地に入るときは、マダニやマムシによる咬傷やそれに伴う感染症の恐れも考慮し、白いつなぎに白い長靴を着用し、虫よけスプレーも十分に塗布した上で活動を行った。また、11月にはヤギによる除草を行っていらっしゃる株式会社いきものがかり様を訪問させていただいた。除草の様子を見学させていただいたり、ヤギ除草に関するアドバイスをいただいたりと非常に貴重な時間となった。実際のヤギ除草を拝見することで、今後どのようにプロジェクトを進めていくのがいいのか具体的に考えることができた。



草本調査時に撮影した写真

3. 草図鑑の作成

各地点で撮影した写真の植物種の同定作業を行った。同定作業の手順としては、「Biome (バイオーム) -いきものAI図鑑」(BIOME INC., BIOME,K.K.)・「Google アプリ」(Google Inc., Google LLC)とGoogleのwebブラウザ内の「Google レンズ」にて撮影した写真を照合しておおよその植物種の候補を絞り、その後書籍を用いてその植物の種類を特定するという方法で行った。その結果、79種の植物種を確認し、その内毒草や薬草と考えられるものは7種類あった。

同定した草について、写真、名前、毒の有無をまとめた図鑑を作成した。それぞれの植物について調べ、興味を持った知識は「ヤギの独り言」として記載した。また、中毒を起こす植物は動物種にとって特有であるため、ヤギとヤギが属する反芻獣に中毒を引き起こす植物を調べてまとめた。



完成した草図鑑

6. 今後の活動にむけて

おもしろプロジェクトへの申請は初めてで始めた当初はとても不安でしたが、自主活動ルームの皆様をはじめ、たくさんの方々に支えていただき無事に2023年度の活動を終えることができました。ありがとうございました。皆様に草図鑑をお手に取っていただき、「草」もいろいろあって面白いなと思っていただければ幸いです。今年度の活動を活かし、2024年度はいよいよヤギによる除草を始める予定です。